

“MY TOWN”うおっちんで 歩キ目デス & 足ラデス

Vol.37

全国屈指！ 庄屋どころの宇和盆地

タウンツーリズム講座主宰・
ヘリテージマネージャー

岡崎直司

ショウヤさん、などと音で聞いただけでは、イマドキの若者には伝わりにくい言葉。もはや死語に近くなっているのではと恐れるばかりだが、今回はその庄屋建築に迫ります。

言うまでもなく、江戸期藩政時代には、年貢の徴収と村の治世を一手にまかされた庄屋は、村長として農の世界に君臨していた。こ一新の明治（注）を迎えて、庄屋制度は一応の終焉を迎えるが、近代にあつても各地の庄屋は従来の地位を遺憾なく発揮することとなる。地主であることを基盤として造り酒屋などの商業ベースや、時には政界に進出するなど、その経済力と発言権は概ね戦前期まで続くのである。

そうした元庄屋が最もダメージを受けたのが、戦後の社会党政権による農地改革。収入の基本であった土地を手放さざるを得なくなり、その経営

環境は激変する。まだそれでも山林所有には手が入らなかったもので、戦後しばらくの住宅ブームなど、林業の盛んな時代は、しばらくは凌ぐことが出来た。だが、今は米も木も経済的に苦しい時代となってしまった。

そうした厳しい条件下で、しかし宇和盆地を見渡すと、今も連綿と維持され、その美しい佇まいが随所に遺されていて、感動を覚える。特に、ステータス建築としての庄屋の門構えを見せる長屋門の在りようには、時代の奇跡を感じるほどである。

まず、写真①は西山田の土居庄屋にある赤門。筆者の故郷にほど近く、印象的な弁柄色の長屋門は、穏やかな農村風景の中で凛とした風格を漂わせている。実家に戻る度に、変わらぬ姿を目にしてホッとするのは私だけではないだろう。

写真②は清沢地区の辻家長屋門。元は、末光家であったが、江戸期に庄屋株の売買があり、伊方から移って来た辻家となる。長屋門の前には堀が掘られていて、宇和独特のチャート系の赤茶けた石積みと共に、庄屋としての防備の在り方も窺える。一方の末光家は、現在、宇和の町並み保存地区である中町にあつて、先年私費修復が成り、その歴史豊かな佇まいを見せている。末光家が清澤屋と呼ばれる由縁でもある。

写真③は、上松葉の本多家。西園寺の居城であった松葉城の大手方向に屋敷を構えてあるが、久枝本多の分家である。母屋、長屋門、石垣が鳥居を背景に佇み、特に晩秋ともなれば大銀杏の黄葉が、遠くからでも庄屋の居所と確認できる。

域の村長としての事績に事欠かない。また、松尾芭蕉の母方の里ではないかとの説もあり、歴史のロマンを秘めた家でもある。

このほか、河内には小倉家（旧大洲藩領域）、中町には鳥居家が左遷の後入った旧清水家（現渡邊家・池田屋・写真⑩）などもあり、宇和盆地の庄屋遺構には事欠かない。これほどのかつての農の象徴である庄屋建築の集中分布は、全国的に見ても特筆すべき事柄である。米どころ宇和盆地の文化的景観である“わらぐろ”と共に、歴史文化の豊饒さが伝わる。

写真④は、威風堂々、久枝本多の正月飾りの際の長屋門。前面の稲田に背景の松林、絶妙のバランスで風景に溶け込んでいる。中町の町並みにある元見屋酒店はこちらの経営で、「開明」などの地酒が人気を博している。旧国鉄誘致の功績に代表される本多慎雄の銅像が運動公園に建つ。

写真⑤は、野田の浜田家長屋門。母屋は存在しないが、門を拜見する限り、庄屋としての威厳は十分に伝えている。

写真⑥は、下松葉の庄屋であつた大塚家長屋門だが、国道56号線沿いにあり、門だけが個人住宅となっている。

写真⑦は、稲生にある旧大塚家長屋門。現在は上甲家となつていて、豪壮な門だけが遺っている。間口が宇和盆地では最も長く、その屋根には、函棟となった雲龍の飾り瓦や、隅棟にも様々な飾り瓦が乗り、これ程の力の入った門が出現した背景について、今後の調査が待たれる。今夏、別件で文化庁から専門の方がお見えの際、参考にお見せしたら、全国的にも評価の高い建築物であつた。

写真⑧。第四十三番札所明石寺の門前に当たる、明石庄屋の伊藤家。長屋門も備えた屋敷構えだが、土塀と大屋根の母屋が只ならぬ気配を見せている。

写真⑨。田野中庄屋の堀内家。こちらも上松葉本多家と同じく大銀杏があり、シンボルツリーとなっている。地区の溜め池である松陰池の築造や、明治初期の田野中大火の際、病身を押して農家にとっての貴重な牛を解き放った逸話など、地



⑩旧清水家

■ブログ「岡崎直司の岡目八目」
<http://blog.goo.ne.jp/eye345>

（注）世の中が全く新しくなった、という意味で、明治維新のこと。



⑨堀内家



⑧伊藤家



⑦旧大塚家長屋門



⑥大塚家長屋門



⑤浜田家長屋門



④久枝の本多家長屋門



③上松葉の本多家



②辻家長屋門



①土居庄屋にある赤門